

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0972400261 | | |
| 法人名 | 医療法人 翼望会 | | |
| 事業所名 | グループホーム ひかり | | |
| 所在地 | 佐野市葛生東一丁目15番9号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年10月24日 | 評価結果市町村受理日 | 平成23年1月18日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.t-kjcenter.jp/kaigo/infomationPublic.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---|
| 評価機関名 | 社団法人 栃木県社会福祉士会 |
| 所在地 | 宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルワーク共同事務所内) |
| 訪問調査日 | 平成22年11月18日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事はもちろんそれ以外にも入居者の希望に沿った外出を取り入れ、四季を楽しめ馴染みの方々の繋がりがもたれるべく継続でき、まだまだ不十分ではあるが地域の方々との繋がりがりや触れ合いも大切にしている。外出を通して入居者は笑顔で生まれ、認知症になっても生き生きと生活できることをそれとなく地域にアピールしている。また、触れ合いを通して地域の方々に認知症を知ってもらいきっかけともなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「職員には恵まれている」という管理者の意識が、管理者と職員の間の風通しの良さを生み出している。医療法人が母体であり、その母体施設が隣接しているため、医療との連携が充実し、医療と健康管理に安心できる点が強みである。また「日々の生活の流れを大切にしたい」「理念からずれないようにしたい」という管理者の思いが、施設内の雰囲気や穏やかにし、利用者の表情を優しくしているようである。また、職員の一人一人が、肌で感じる利用者からの情報を大切にし、その一つ一つに丁寧に答える雰囲気があり、お一人お一人に寄り添う姿勢を強く感じる点が大きく評価されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 運営方針(理念)、また基本構成を掲げている。理念の実践のために、毎日の朝礼や日々の介護の中、カンファレンス等の際に入居者の方への具体的な対応等話し合っている。 | 「そのひとらしく暮らす家」を運営の理念としている。取り立てて理念に関して職員同士が話し合うということはないが、何か課題があると常に理念に戻って考えるよう努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日常的に買い物や散歩等に出かけ、近所の方と挨拶を交わしたり、話をしている。また、近所の方からは、野菜やお花を頂いている。地域の行事等には参加し、近所の知り合いの方に会う等の交流ができています。 | 近所のスーパーへ買い物へいったり、近くの神社での節分行事や地域のお祭りへ行くなどできるだけ地域との交流を行っている。例えばフラダンスのサークルが訪れたり、中・高校生の実習受け入れ、野菜の差し入れなどもある。 | 施設の認知をはじめ、地域との交流を何とか広げたいとおもっている気概がくみ取れます。認知症に関する公開講座を開いたり、施設の持てる資源を公開して、地域に役立つ施設としての認知が図られることを期待します。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 散歩や買い物、外出行事、またホーム内での行事等にて、職員の入居者の方々との関わりを地域の方々が知る機会となっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 委員の方々には、ホームでの取り組みやサービスの評価について説明し、意見をもらい取り組んでいるが、地域との連携等、取り組みとして不十分なところがある。 | 委員には地域包括支援センターの職員を加えるなど進展が見られる。議題等も近況報告以外に敷地入り口の施設問題や消防訓練の事後検証など推進会議の充実化が図られている。 | 同法人内の施設間の協力体制があり、ケアの安心に繋がっている。地域とのつながりを強める為、町内会長や班長、警察関係者など、委員の幅を広げ、地域との強い絆を構築することに期待します。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 事故発生時、報告書提出、人員基準等に関する助言等を頂き、サービスの質の向上に努めている。 | 課題があれば市の担当課に随時相談し、アドバイスを貰っている。特に介護保険関連では迷うことも多いので、いろいろ相談に乗ってもらい、サービスの質の向上に努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束において禁止の対象となる具体的な行為等勉強会を通し理解を促している。玄関の施錠について、職員会議や、運営推進会議を通し検討を重ね、可能な範囲で鍵を開けておくようにしている。 | 起立を感知するセンサーマットを導入したり、敷地入り口の施錠も今年から昼間は開放を原則とするなど、職員の創意工夫と議論を重ねながら、拘束なしのケアに努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員会議にて虐待防止についての勉強会を実施し、虐待防止につとめている。又、栃木県高齢者虐待防止マニュアルを職員が見やすい場所に置いている。 | | |

グループホーム ひかり

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 今年度は、制度について学ぶ機会をとることができなかった。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時や退去時に十分説明を行い納得してもらえるようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 自由に思いを話せるよう環境を整え、また、ご家族来居時には、意見の情報収集に努めており、要望や不安等について表せる機会を設けている。外部者へは表せていないようで、外部者からの情報は無い。 | 利用者の要望等は言葉を通してのものも大事にしているが、職員が普段の生活の中から感じ取ることも大事にしている。家族からの意見や要望は面会時を利用して聞き取るようにしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 会議や普段のコミュニケーション、アンケート等にて提案を聞き出し、どのように反映させていくか会議等にて検討している。 | 全職員からアンケートをとり、職員意見の反映に努めている。今まで、シーツの交換曜日や下水掃除の頻度、食品発注方法など、職員の多くの意見を取り入れ、改善が図られている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人で就業規則等の改定を行い、給与規程等見直しを行った。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内の研修において「接遇」「救命救急処置」についての研修を実施した。11月には「感染症」についての内部研修予定している。外部研修について、受講している職員もいるが全員ではない。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 外部実習に来る他事業所との情報交換や、管理者の外部研修を通してネットワーク作りを行い、サービスの質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用前に本人と会い話を聞くよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に会うことが難しい場合は、電話にて、時間をかけ聞く機会を作っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人の状態を聞き、情報の提供をしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 趣味、特技、裁縫、歌、家事仕事等を一緒にやりながら、入居者に教えてもらったり相談にのったりして、喜怒哀楽を共有している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居前や入居後の面会時等を利用し、家族と話す機会を作り、本人の状況や希望を伝え、一緒に支えていけるよう働きかけている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 前にいた施設も含め、家族や本人から情報収集をして出かけたり、老人会や近所の人と会いに來たりできるように、家族の方に協力の声掛けや、馴染みの方に再度来居して頂けるように声掛けをしている。 | 同法人の同族施設からの入居者が9割を占めているので、法人内の交流も多いが、行きつけの理容店に家族に連れて行ってもらうなど、馴染みの関係が継続できるよう支援されている。また、馴染みの人に訪れてもらえるよう声掛けも行っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | お茶を飲む時やレクの時等、気の合う方と同じテーブルになってもらったり、他の方とのコミュニケーションの間に入る等して、関わりをもてるようにしている。また、生活の中でできない事を、できる利用者が手助けをしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 家族や退去後利用の施設、病院関係職員とコンタクトをとり、又、家族、本人ともコミュニケーションを図っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々のコミュニケーションの中で意向の把握に努め、記録等を通し情報の共有を図っている。困難な場合は、職員で意見を出し合い生活歴等探りケアをしている。 | ご利用者からの意見や要望は普段のケア中のコミュニケーションを大切にすることはもちろん、職員が、申し送りノートを活用しながら、生活から肌で感じる情報をできるだけ多く汲み取るように努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前や入居後の面会時等を利用し、家族と話す機会を作り、把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々、その方の言動を大切にしながら記録に残し把握するように努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族から、生活歴や意向の聴取、居宅ケアマネ等関係職員からの情報収集を踏まえて、意見を出し合い介護計画を作成している。また、次の介護につながる記録の書き方に努めている。 | 本人の声と希望を大切にすることはもちろん、家族からの情報、主治医の意見等、幅広く取り入れて議論・検討し、介護計画を作成している。特に申し送りノートや日誌が反映できるよう記録のとり方の工夫も行い、丁寧にモニタリングも行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々、次の介護につながる記録を心掛けている。また、情報の共有が図れるように申し送りノートを活用している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 特に行っていない。 | | |

グループホーム ひかり

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 行事等でボランティアの方に来て頂き一緒に歌ったり踊ったりしている。近所の知り合いの方も多く、喜ばれている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 状態に応じ、家族の意向も踏まえながら受診している。外部機関との関わりの際は、必要時は手紙を通しかかりつけ医に現状の理解をしてもらっている。 | 利用者の現状から、利用者のほとんどが法人内の医院の担当医をかかりつけ医としているため、それが強みとなって、24時間対応の受診体制が整えられている。外部の医療機関に対しては書面で報告をしている。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 職員の中に看護師がおり、日々の健康管理をしている。また、訪問看護ステーションとの契約により週2回訪問看護の看護師が訪問しており相談できている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は書面にて情報提供し、その後は随時連絡を取り合うようにしている。病院関係者との関係作りを深めていく必要がある。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 書面を作成し、状態に応じ家族や主治医と相談し方針を定めているが、本人や家族全員からの情報が不十分な為、今後の段階をみながら方針を定めていきたい。また、現状を把握し情報を共有しながら今後予測できる状況を踏まえ支援を検討している。 | 施設では「重度化した場合における対応の指針」や「看取りに対する同意書」を用意し、入所時に本人や家族からの了解を得ている。同法人内の資源を最大限に利用した重度化や終末期に向けた施設の方針は、共有されている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 一般的なマニュアルがあり、消防署、または、法人内で救命救急の講習を職員が受講している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 2回/年、昼夜におけるホームでの通報訓練、消火訓練、避難訓練をおこなっている。運営推進会議で地域の人達の協力の働きかけをしたが困難な状況。ひかりが地域へ貢献できるよう働きかけをおこなっている。 | 9月に念願の夜間避難訓練を行うことができ、夜間の対応の問題点を洗い出すことができた。情報によると周りには若い人の住人が少なく協力体制の構築には不安もあるが、地域の協力体制の構築に努力を重ねている。 | 同法人内の施設が隣接しているので、災害時にはその協力を期待できるが、地域の応援と協力も欠かせません。近隣には公的機関も多いという利点を活かして、昼間と夜間の災害対策を切り分けて構築するのの一考かと思われる。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 常に、本人や家族の視点に立って呼び方を考えている。本人の状態に合わせて「○○ちゃん」と呼ぶ場合は、家族に了解を取っている。 | プライバシーの尊重と確保には神経を使っている。トイレのドアの戸閉めや入り口のドアのカーテンの開け閉めなども、失礼のないように、外から見えないような配慮もしながら個人に合わせた尊厳を保つようにしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | コミュニケーションを多くとり、職員が断定した話し方をせず、問いかけるように希望を引き出せるような声掛けをしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床や入浴、食事に掛かる時間等、本人なりのペースに対応できるように努めている。また、コミュニケーションを通し、希望の把握に努めている。業務はあるが、極力入居者に感じさせず生活出来るように配慮している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入居者の方の好みや着たい洋服等その都度選んでいただき、希望に沿えるよう努めている。入居者によってはいきつけの美容院を利用している方もいる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 職員が一人ひとりの好みを把握している。一緒に食事準備を行い、準備をした時の事や季節の物について等話をしながら食事を摂っている。また、畑の野菜を収穫し、好みの調理を一緒に行っている。 | 嫌いなメニューにあたる時は代替りの一品を出したり、梅干が欲しい人には忘れずに付けてあげるなど、細かい配慮をしている。職員は一緒に物を食べ、常にその味を確認している。準備や後片付けなども楽しそうに手伝っている利用者がみられた。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 管理栄養士からの参考資料を元にメニューを作成している。1回/月の主治医の往診にて状態に応じた食事のバランスの確認をいただいている。水分が少ない方には、食事以外に随時摂取してもらっている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 入居者の状態に合わせて、毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、困難な方は状況に合わせて職員が支援するようにしている。 | | |

グループホーム ひかり

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 排泄チェック表を利用し、個人の排泄パターンを把握。身体的負担を考慮した入居者を除き、トイレ誘導をし、昼間は紙パンツの使用のみに押さえ、夜間オムツ着用している。 | 個人の排泄パターンを把握した支援をしているせいか、自分から排泄を訴える利用者が多いようだ。また、自立のために可能な限りトイレトペーパーの使用を勧めている。排泄回数の変化も健康指標の一つとして大事にしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 繊維質の多いものを取り入れるようにしている。また、散歩や体操等で体を動かす機会を設けており、水分補給にも心掛けている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている | 入居前に、家族や関係機関より情報収集をし一人ひとりに合わせている。また、本人のペースで入浴に入って頂けるよう努めている。夜間入浴できるようにしている。 | 入所前の入浴習慣を継続できるように支援している。夜間の入浴にも対応しているが、人員配置の都合でどうしても対応できない時は、夕刻の入浴で我慢してもらうこともある。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 疲れたら休むよう声掛けし、個人の希望で眠れるように支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬が新しく処方になった時や、変更になった時は、薬の内容をノート等に記載し、全職員が把握できる様にしている。また、変化等記録に残し、主治医へ伝えるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居前に、家族や関係機関より情報収集をし、家事仕事、畑仕事、等の役割が持てるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 以前より散歩の機会は減っているが、買い物や散歩等の声掛けやコミュニケーションを図り、できる限り希望に沿うように支援している。又、行事では地域との協力体制はとれていないが家族と協力して外出する機会もある。 | 紅葉や花見行などの行事が利用者に喜ばれている。行きつけの美容院へ行く人や自宅へ帰る利用者もいるなど、希望の外出を家族と共に支援している。遠出などはなかなかできないが、庭に出て外気に当たるなど、外の雰囲気を楽しむことを日々大切にしている。 | 利用者の重度化と人員配置の問題で散歩や外出の機会が減っているようである。外に出て、外気に触れることは身体的にも精神的にも大切なことである。事情の許す限り、人員配置問題等の検討も期待したい。 |

グループホーム ひかり

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人や家族と相談し、希望により個人でお金を管理しており、買い物やお出かけ時に使えるようにしている。自分で所持することが困難な方は、職員で預かり、本人が購入したいものを買えるように努めている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望により、家族にかけられるように支援しているが、職員が間に入っている。大切な人との電話や手紙のやりとりは実施していない。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の花々や作品を飾ったりしている。障子を閉める等して光の調整をしたり、ソファを置き、ゆっくり過ごせるようにしている。外気が不快に感じられない日は窓や玄関を開け開放的な気持ちよさを感じられるよう努めている。 | 自宅から職員が花を持ってきたり、金魚やカニを飼うなど、外の空気を感じられる空間作りを心がけている。また、ごく自然な生活ができるよう、普段の生活の匂いを大切に生活空間作りを目指している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 東と西ホール、畳コーナーと分かれており、思い思いに過ごされている。テーブルも小グループで座れるよう配置されており気の合った人同士で座れたり、セッティングによっては色々な形で入居者同士が関わられるようになっている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人やご家族と相談し、可能な範囲で持ち込みをされている。 | 9割の利用者が同法人内施設からの移住であるため、家財の持込が少ないが、それでも、亡夫の写真や家族と祝った誕生写真、敬老会で貰った座布団、テレビ、冷蔵庫など、思い思いの持込をして自分なりの生活空間作りをしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホール内や玄関は全てバリアフリーになっており、玄関の境が分かりづらいが、ガラス戸で境を分かるようになっている。畳コーナーは段になっており、腰掛けたり、畳コーナーにある物を取ったりしている。 | | |